

ミライロと関鑑

福岡天神のFMラジオ

FUKUOKA2020

次世代を担う学生が成長企業取材し、
自分が将来活躍するフィールドを探しにいくコーナーです。



学生スタッフ NPO法人学生ネットワークWAN



取材 株式会社MIKI・ファニット

代表取締役社長 太刀山 美樹氏

■今月の取材先 株式会社MIKI・ファニット
〈住所〉福岡市西区内浜1-7-2 西部スポーツガーデン2階
〈電話〉092-407-2530
〈概要〉「育てる」をはぐくむを企業理念に掲げ、芯の強い子を育てる運動スクールを運営している。0歳のベビーからシニアまで、幅広い年齢層への運動指導を行う。

「子どもから大人まで、 元気で芯の強い人になってもらいたい」

子どもの挑戦力・チーム力・表現力を育てること、そして大人も成長していくことを掲げ、チアダンスや運動のレッスンを行っている(株)MIKI・ファニット。今回は、そんな(株)MIKI・ファニット 代表取締役社長の太刀山さんにお話を伺いました。

御社を設立した経緯について教えてください。

大学受験の時、私は国立大学の教育学部を目指していたのですが、センター試験で失敗し浪人もできなかった中で、運動が好きだったという理由で体育学部に進学しました。大学に入ると周りがエリート選手ばかりで、私は落ちこぼれになってしまったのです。そこで初めて「できない人」の気持ちが分かり、この経験が後の会社設立につながりました。

大学を卒業後は、就職・結婚・出産を経て子どもが0歳と1歳になったころ、「子どもにもママにも友達を作ってあげたい」、「ママ友が働いている間、子どもの預け先がない」などの悩みをどうにかしたいと思う機会が増えてきました。自分にできることは何だろうか考えたとき「子どもと遊ぶこと」がその問題の解決につながっていくのではないかと考えました。そこで、遊ぶようにして「運動と教育を一度に学べる」プログラムを作成し、最初は一人でボランティア活動から始めました。

その後、NHKの体操コーナーをやらせていただいたり、学校の講師のお話をいただいたりしてお仕事の幅が広がっていったのですが、それと同時にお客様に迷惑をかけてしまうから自分の子どもの授業参観に行けないというような、「叶えたいこと」と自分の生活が離反するということが起きてしまいました。その時にオランダのワーキングシェアの仕組みを見つけ、一人で活動するのをやめてボランティア団体を設立することにしましたが、活動を続けていくうちにボランティア団体だと運営や人材の雇用などが中途半端だということに気づき、会社になりました。

(株)MIKI・ファニットのビジョンと事業についてお聞かせください。

人生で一度は、気持ちが折れてしまい次に進めなくなることがあると思います。だからこそ、どのような困難があっても自分で立ち上がっていける子どもたちを育てたいと思って活動しています。それは子どもたちだけでなく、大人の私たちもそうありたいと思っています。MIKI・ファニットの「MIKI」は樹の「幹」のことで、「挑戦力」と「表現力」と「チーム力」という3本柱でスクールを開講しています。

現在は、苦手克服の体育や、チアダンス、チアリーディング

グが主流です。学校に馴染みにくい、いわゆるボーダーのお子さんもいらっしゃるのですが、その子たちの居場所を作り、自信をつけてもらいたいと思っています。お母さんと体を動かしている間にちょっとしたことで「いつの間にかできるようになった!」という子を育てたいですね。人と比べるのではなく、自分の努力によってできることが目に見えて増えていくのが良いですね。

他にも、シニア世代の体力作りを目的に、グランハブというシニア向けのチアダンス教室もあります。この教室では、今の子育て世代のママにも参加していただき元気になる取り組みということで、今や社会活動になっています。

「子育て世代のママをチアダンスで元気にする」という目的もあるわけですね。芯の強い子を育てるということとチアダンスにはどのようなつながりがあるのでしょうか。

親や先生が元気ではないのに子どもだけどうにかしようとするのは難しいと思っていますので、子どもだけでなく、周りの大人も元気にしたいですね。

チアダンスに限らずどの競技も「人前に立って自分を表現すること」が求められると思います。そのうえで、チアダンスの特徴は“相手に喜んでもらう”、さらに“みんなで作る”ことであると思っています。上に立つ人や下で支える人、横で支える人と後ろで支える人といったそれぞれ役割が違うもの同士で一つの“ダンス”を作り上げます。それは社会の仕組みと同じです。**それぞれの役割をしっかりと全うしていないとチームが成り立たないし、人任せだと倒れてしまう。そういったことをチアダンスの経験を通じて子どもたちに伝えていきたいです。**

御社には、スタッフにシニア世代の方がいたり、多様な働き方をしている人がいるそうですね。

今年から71歳の受付嬢が活躍しています。ときには他のスタッフと考え方の違いなどで衝突することもあります。が、**何歳になっても生身でぶつかっていき、チャレンジできるということとを彼女から肌で感じているので、他のスタッフも刺激を受けて変化があったと思います。**さらに現在は、17歳の高校生もアルバイトに来ています。17歳と71歳が一緒に働いていることで、お互いが新しい発見につながったりします。また、他にもやりたいことがあるからということで、週休3日にしている社員もいます。今回のコロナ禍になる前から、テレワークを導入していたため慌てずにすみしました。3ヶ月ほど続けると会社に合うか合わないかが分かるので、試行錯誤をしながら継続しています。

コロナ禍でテレワーク環境になっているんですね。お客様やスタッフとのコミュニケーションはどのように取っているのでしょうか。また、業務に変化はありましたか。

お客様とも、スタッフとも会ってコミュニケーションを取ることとはとても大切だと考えています。しかし、スタッフ同士でも実際に会うことが難しいので、Zoomなどを使って毎朝の朝礼や定期的な研修、新人研修もオンラインで行っていま



す。以前からポータルサイトを整えていたので、社内の情報共有にはポータルサイトを使っています。

お客様に向けては、オンラインでレッスンしようと試みています。とにかく目の前にいるお客様へサービスを届けたいという一心で、オンラインツールの得意なスタッフが率先して導入に向けて取り組んでいます。

業務については、コロナの影響もあり業務内容の見直しや分担を変更しました。今、特に力を入れているのはICT分野です。20代のスタッフをトップに進めており、**専門家をお呼びしてスタッフのサポート体制も整えました。**

各社員が自分の一番得意な分野を担当されるのですね。

そうですね。若手社員がリーダーとなって周りに指示をするという経験は良いと思います。**でも「責任者」という肩書を与えられると、責任が重いように感じてしまうので、「リーダー」と呼ぶようにしました。**管理職として、その人に5年後にどのような活躍をしてほしいかということを真剣に考え、これから出てくる悩みも予測し、一番重荷になりそうなところは本部に任せて、その中でリーダーとしての役割を果たしてほしいと伝えています。

負荷のかからないようにマネジメントしながら、成長してもらう仕組みを作っているんですね。本日はありがとうございました。

運動のスクールを通して、困難があっても自ら立ち上がる子どもを育てたい、さらに、子どもだけでなく大人の成長にもつなげたいという太刀山社長のお話に共感しました。また、力強く組織を牽引され、多様な世代・多様な働き方が共存する環境を作り上げている姿がとても素敵でした。

取材日：8月5日



■NPO法人学生ネットワークWAN とは?
設立17年目を迎える学生主体のNPO。「学生だから〜できない」「地方だから〜できない」を変えるべく全国19地域の情報発信支援や、地域の関係人口をつくるコンテンツ企画運営をしている。私たちの運営するサイト「ガクログ」もぜひCHECK!!
http://www.gakulog.net/



■FMラジオ番組「FUKUOKA2020」とは?
福岡市中央区のコミュニティFM放送局「コミュニティラジオ天神 (FM77.7MHz)」にて、毎週木曜日19:00〜ON AIR! 地域の情報・次世代ビジネス・地方創生などの最新情報について、大学生を中心とした若手メンバーとゲストで発信するラジオ番組。ラジオというメディアの新しい可能性を、ソーシャルメディアやスマートフォンファーストでビジネスを考えている世代が探っていきます。